

愛媛県真珠養殖業地域プロジェクト もうかる漁業創設支援事業実証結果報告

【事業実施者: 明浜、宇和島、三浦、下灘、うわうみ漁業協同組合】

実証期間: 平成22年11月1日～平成25年3月31日

全国有数の真珠生産地域である宇和海において、当年物主体の真珠の生産方法を、真珠の品質を確保するための重要な要素である真珠層の厚みを増すことができる「越物」と呼ばれる2年間養殖する生産方法に転換することで、生産される真珠の品質を向上させ、現在、国内に流通する白蝶・黒蝶・淡水などの外国産真珠に打ち勝つことのできる高品質な国内真珠の生産体制の構築と愛媛県真珠産業の復興を目指した実証事業を行った。

実証項目	実証結果
<p>【生産に関する事項】</p> <ul style="list-style-type: none">①生残率の向上②浜揚げ時期の最適化③生産手法の転換 <p>【流通・販売に関する事項】</p> <ul style="list-style-type: none">①大ロットの販売②ネックレスサイズに適したサイズの真珠生産③低品質真珠の廃棄	<p>【生産に関する事項】</p> <ul style="list-style-type: none">①2年貝(採苗後1年程度育成した若い母貝)の使用による生残率向上の取組により、3年貝より生残率が向上する実証結果が得られた。また、冬場の北西風を受けにくい漁場へ養殖筏を敷設した宇和島漁協では生残率の向上と付着物減少による経費の節減が図られた。②試験剥きを実施し、早期浜揚げを実施した23年挿核貝で、一級品単価が6,379円と前年5,137円より24%アップした事例がある反面、同じ早期浜揚げで、十分な巻きはあったもののテリ(光沢)が不足して4,617円と通常出荷の平均5,137円を10%下回る例もあり、適正な浜揚げ時期の見極めがきわめて重要であることが明確となった。③3年貝に使用する核(6.67ミリ)を2年貝に挿入する実証では、生残では有利なもの脱核等も多く9ミリ以上の出現率が上がった反面、一級品の割合は低下した。原因として、挿核最適時期に母貝が挿核サイズに達せず、高水温期に挿核を実施せざるを得ない状況があった。 <p>【流通・販売に関する事項】</p> <ul style="list-style-type: none">①大ロットでの販売は、生産された真珠の品質にばらつきが大きかったこと等により、一部の漁協のみの実施となったが単価アップには繋がった。②ネックレス加工に適した7ミリ珠の生産を2年貝を用いて行ったが目標とした1級品の製品率アップには繋がらなかった。③低品質真珠を市場に出荷しないために供出を行って真珠価格の向上に取り組んだ。

収支の状況について

上記のとおり、実証項目については一定の成果を得た。収益性の改善に関して、本事業による真珠の生産は改革計画の目標(844, 815匁, 2, 020百万円)を下回った。その理由としては、冬場に海水温が低めに推移したことで、低水温に弱いとされる中国系母貝のへい死がみられたこと、夏場にカレンアミキモイの赤潮が発生するなど漁場環境の悪化によるアコヤ貝の生育不良がみられたこと、震災や円高等による国内外の景気が不安定なことが販売単価や売上金額の伸び悩みにつながったと考えられた。なお、事業期間終了後、販売重量、価格とも急回復しており、本事業による越物生産の有効性が確認されている。